（明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可）（日刊）月曜及祭日の翌日休刊　明治四十三年五月十三日（金曜日）　第四百三號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

内外應酬

一記者

京城皆見錄（七）

（ヲ）韓婦人　之れは京城の韓婦人を指すのであるが、先づ總体に韓國の婦人に就き說き、夫れに首都に於ける婦人の特色を點じ、而して京城の婦人をれ目にかけやう。

韓國の婦人は總じて無勢力である、奴隷である、玩具である、玩具であるが故に男子は甚だ之れを愛惜する譬へば秘藏の細物の如くである、他をして指をだに觸るゝことを許さない、同時に愛惜の心薄きものに對しては頗ぶる冷酷である、若し男子愛惜の心深き場合は婦人は閨中に於て嬴得たる一種の勢力を門外にまで及ぼす場合がある、併しながら幷は奴隷的、玩具的勢力であつて其の自覺が伴はない、故に無勢力である、去りながら一朝彼等が覺醒の期に到達したならば何うであらう。

韓國の婦人が覺醒して、敝衣を脫いで大路を濶步する時節が來たならば其勢力たるや實に恐るべきものであらうと思はれる、其理由は僅うである。

第一に彼等の体質は大且つ强である日本婦人など到底比較にならない、第二に彼等は韓國の男子の如く卑屈で無い斯く云へば、何故に卑屈なる男子の下に屈伏して居るかを怪む者もあらうが夫れは韓國の女性は韓國の男性に服從する外は無いからである、第三に彼等は女々しくない、所謂子煩悩の如きは男子に多くして女子には極めて少ない尙數ふれば多々あるであらうが、叙上三個の理由を以てしても韓婦人覺醒の曉には如何に獰猛なる勢力を成すであらうか、想像するだに身の毛も悚立つばかりである、左に其の理由の理由たる理由を說明しやう。

第一の理由たる婦人の体軀は日常見らるゝ通りであるから之れには說明を要せず、第二の理由たる彼等は男子の如く卑屈で無いといふのは、彼等が自尊心の强烈であることである、元來韓國の婦人は名をも有たぬ程で、彼等の存在は門外に對して何等の交渉を有せざることが韓國の習俗である、而して門内に於ては其の一族の上長に對しては絕對服從の義務を有するのである（勿論倫を亂るの服從は皆無である）即はち彼等の義務は其の屋内に蟄居する間に其の總てを完ふすることになるのである、故に彼等は一步門外に出づれば韓の社會は彼等に對して强ゆべき何等の權利をも有せぬのである彼等の自尊心は此間に發生するのである。

●西海方面の密漁船

平安南北黃海道沿岸監視の爲め四月十九日仁川港を出帆したる第四第五第六巡邏船は廿日黃海道夢金浦に於て小形支那ジャンクの碇泊せるに遭ひ臨檢したるに何れも大孤山方面より海參漁獲の爲來航したるものにて夢金浦駐在巡查の爲め歸國を命ぜられたるものなりしを以て說諭を加へ二十一日退去せしめたりと又廿二日夢金浦沖合五六浬の海上に七隻のジャンク彷徨するを認め之を追跡して夢金浦に入港せしめ尋問したるに之も大孤山より來れる海參漁船にして初めて來りたるものと判明したるを以て前同樣說諭を加へ歸國せしめたりと因に泥島及夢金浦は年來清國密漁船の寄泊地にして泥島の如き既に數十隻のジャンク寄泊したる由にして之等に物資を供給する爲めの支那人店舖一戶開業し居たりと云ふ

●漁業の盛期に入る

一年中に於ける漁業家の活動時期と稱せらるゝは本月上旬より來々月下旬頃迄なるが其漁業の一般概況を示せば左の如し

▲巨濟島方面　巨濟島の東南岸には目下大規模の鰆巾着網又は揚繰網等にて就業し其揚繰網は三十組内外なり尙引續き鰯の漁期に入るを以て又例年の通り三千人餘の漁夫今月末より來月にかけ巨濟島、鎭海灣に集中すべし

▲水營灣方面　目下全羅道水營灣、順天灣、内外羅老島、得粮島附近は清國輸出向の蝦及び鰆の盛漁期なるを以て該方面に集中すべき漁船は又二百艘内外に達すべし

▲竹島燈島方面　群山木浦間の漁場は已に七山灘、蝟洞近海の石首魚漁業を終りたるも目下は竹島、燈島、隔音群島附近に於ける鰆、鯛、石首魚、太刀魚等の盛漁期なるを以て此目的を以て集中し來る漁船又三百艘以上に達す

以上の如く沿海各方面に於ける漁業盛漁期に入れるを以て水產組合にては此等就業漁夫の衞生及び海上通信の保護等に就き大に多忙を極め居るなり

●懲毖錄原版の發見

文祿の役を敍する者日本に於て必先づ懲毖錄に據らざるはなし刊行本は本國に於ても珍しからず往々史家他好事者の机上を飾れるを見る併しながら其原版木は單に韓國に存在せし者と記憶せる迄一向其所在さへ突止めたる者もなく從ふて一般は既に原版は全く湮滅に歸したる如く思惟されたりしが近時に至り某官憲は不測にて某僻遠の地に同版全部發見する事と近日京城に運來るべき手筈に迄進み居れりと聞く既に大藏經版の發見あり今亦た小品ながら此發見あり學界の爲め慶すべき事なり

◎新刊紹介

▲初等英語（第三卷五號）名の如く初心者の爲めに至て叮嚀說切に講じてある殊に朗讀法の如きは懇かな敎師に就て學ぶより餘程好い初學者に薦む（東京銀座東華堂發兌一部八錢郵稅五厘）

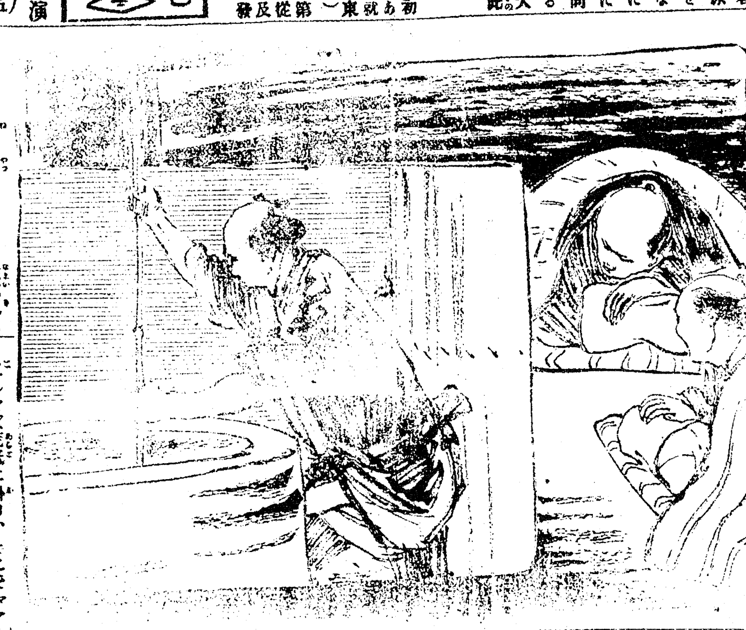
▲韓國中央農會報　第四卷第二號、第三卷出づ農事に志す者は勿論貿易に從事する者にも推薦する理由は說くに及ばざるべし（京城大和町二中央農會發行定價一冊二十錢郵稅一錢）

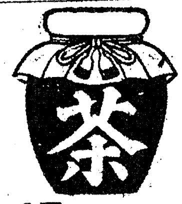


第百十一席　邑井一講演

津田近江之守（十五）

二年目の事でございます、毎年の例として助直より弟子一同へ地金を渡し一振づゝ鍛たせまして其鍛つたものを町人差に賣つて金を小遣ひとして弟子一同へ與れる、直助も地金を渡し一振鍛つて見ろと言はれた、スルと二三日經つてから藤助と云ふ男仕事場へ這入ると直助が泣いて居る　藤「何うした直さん、皆さんが私を乞食見た樣な奴、向槌を打つて堪るものかと、誰れ一人として向ふへ廻つて相槌をして下さるれ方がございません、恐はす夫れがために泣いて居りますので、どうか御勘辨をなすつて下さいまし　藤「ヤイ政、汝達は何故そんな意地の惡いことをするんだ、汝達の内職に作へる刀の向槌は、隨分この直に吩咐けて相槌をさせてるぢやねえか、そんなら相身互ひだ、何故打つて遣らねえんだ　政「だつて大哥考へて御覽なさい、彼奴アね未だ前さん仕事に掛つてから三年ほどにはなるが只の一度も橫座へ坐つたことの無ね奴だ、それに生意氣に私等に向槌を打てつてなことを吐すんで　藤助「さア然ういふことを汝達は云ふから可けない、年限が淺いからつてその身が遣らうといふ一心なら、何んな物が出來るか知れねえ……直そんなことを云はれたと云つて泣く奴があるものか、ちやア乃公が向槌を打つて遣らう　直助「ヘエ、ちやア藤助樣貴郎何でございますか、アノ相槌を致して下さいますか、どうも有難うございます」大きに悦びまして直助は一生懸命と相成りまして、藤に掛けましたる地金を出しまして、カチ〳〵これを打ち延ばしまするにございます一弟子藤助といふ者が向ふに廻つて相槌をして遣りましたが、どうもその槌の入れ方の激しいこと、といふものは、何のことはない親方が一生懸命になつて仕事をいたして居る其の向ふに廻つて、その身が汗を發いて相槌をすることがありますが、些とも津田越前守に異つたところがないのですから、後世恐るべき奴だと、心のうちでは思ひながらも、漸うのことに直助の打ちまする刀に、この藤助といふ一弟子が向槌をいたして、何うやら斯うやら仕上げるといふことに相成りましたのでございます、鈩り最初から長いのは宜くないといふので、町人挾に適當なる刀身一尺三寸といふ、細身に作へまして、さて出來上りまするとこれを荒砥に掛け、そこでマア白鞘にチャンと納めるといふことに相成りました、そのうちに七八人の弟子も皆思ひ〳〵に、長いものもあれば短刀もあり出來上つたことでございます、今日は試驗といふ其の當日に相成りまするし、皆々津田越前守の前へそれを待つて出ることでございます、素より銘々稽古に打つたので、別段銘を入れるの何うのといふことはございません皆無銘でございまして、誰れが何れを打つたやら分りさうなことはございませんそれを纒めて差出しました　一同「師匠樣、今日は目出度うございます、また相變らず詰らぬ物を作へましたが、何うか御覽のほどを願ひます」といふので、スラリ師匠の前に差出しました、そこで越前守は一々これを鞘を拂つて、金色、燒刃の付け樣梅式、帽子尖から中、脂などの樣子を一々眺めて居りましたることでございますが一口として申し分の無い奴はございません　越前「誰れだ此刀は、政汝だな　政「ヘエ、當年は餘ほど旨く遣つた積りですが　越前「馬鹿奴、汝は我れの弟子になつて何年になると思ふ、ウムツ、幼少の時分から長らく就いて居つて殆ど十年近うも仕事をして居るんだ、この態は何だ、第一こんな物は鍋割けにもならない　政「どうも親方酷うございますね、それでも茶葉ぐらゐ切れますよ　越前「さういふ不選口を利くんだ、第一汝は幾ら我れが異見をしても、夜分になればコッソリと潛んで宅を飛び出しやアがつて、修業中に地獄などを探して歩きやアがつて詰らぬ女を追ひ廻して居やアがるんだ、然ういふ根性では生涯仕事は上達りやアしない　政「ヘエマアどうも當年中の小言の聞き納めでございますマア年々に斯うやつて一口づゝ打つて居りますが、貴郎が御覽なすつて、これなら少しやア優しだと云ふところまでは、到底死ぬまでも六ケ敷いことだと觀念いたして居ます　越前「い〳〵了簡な奴だ汝ア、マア〳〵こんな鈍刀は役に立たない直にこりやア及が曲つて了ふは……これは誰れのだ　藤助「ヘエ親方それは私のです　越前「藤助汝も可かねな　藤助「餘ほど親方い〳〵積りですが　越前「可けない、どうも汝のも鈍いな湯加減が第一可かねえな　藤「それは貴郎、呼吸をまだ貴郎から秘傳を授かりませぬから、その邊のところは少し斯う……　越前「だが汝の呼吸で遣つて見ろ、これなら出來るといふ見込が付いたら、何時でも乃公が秘傳を敎へて遣るんだ」云ひながらも先繰り〳〵と調べましては小言を云はれる奴ばかりでございます、其妙所に達すると云ふ迄にはなか〳〵容易なことではありません、スルと中から一本取出したる刀　越前「是れ〳〵誰だい乃公の打つた刀を此樣な所へ混せて置きやアがつて　政「ヘエッ、貴郎のお打ちなすつた刀といふのはありやアいたしません　越前「馬鹿を云へ、この刀は、これは乃公の打つたのだ　政「オイ誰れだい彼の刀は」一番背後の方に小くなつて居りました直助は「ヘエそれは師匠樣それは私の打ちましたのでございます。









東京電報

▲統監更迭の發表期
既電の如く曾禰統監の更迭は既に決定したるも英皇崩御の爲め宮中喪仰出されたる爲めに延引せられ次第なるが廿九日頃發表せらるべし(十二日)

▲英吉利協會の弔電
東京英吉利協會はエドワード陛下崩御に關し林伯の名を以て弔電を發したるに九日左の返電に接したり(同上)
皇后陛下は東京英吉利協會の懇篤の弔辭に對し誠實に感謝し給ふ

▲望月小太郎氏渡歐
望月小太郎氏は夫人同伴來る廿五日佐渡丸にて渡歐の途に就く由夫人は文部省より歐米女學校の理科及家政教育の調査を囑托せられたり(同上)

▲花井氏の入會打消
花井卓藏氏は明白に政友會に入會の勸誘を受けたることなく又入會するの意思もなし暫らく孤立を守りて政界の形勢を察すべしと入會說を打消せり(同上)

▲御大葬と我皇室
我皇室にては伏見宮殿下を御名代として故エードワード七世陛下の御大葬に御參列の筈本日御親電を發せられたり

▲暴風と船艦沈沒
昨十一日暴風雨の爲め驅逐艦叢波、卷雲の二隻は航海中伊勢灣に吹き揚げられ又大阪商船會社所有船和歌山丸はスサミ港にて沈波し船長は溺死其他乘込員五十二名今尚ほ行衛不明なり叢波、卷雲は共に日露戰役の際旗艦に於ける戰利艦にして何れも排水量四百噸三千五百馬力なり(同上)

▲英國陸軍の謝電
本日英國陸軍卿より英國陸軍を代表して左の謝電ありたり(同上)
本邦に於ける大惡哀に對し深厚なる御同情の電報に預り我陸軍は陛下及日本陸軍に向つて茲に謝意を表す

▲佛國下院の形勢
佛國 下院の決選投票は豫期の如く政府黨多數を占めたり(同上)

▲砂糖消費稅施行法
本日の官報を以て砂糖消費稅施行法中改正及四十三年度歳入歳出豫算中第一用式を以て補充し得べき費途に關する件發布されたり(同上)

▲英國艦隊の延着
ウインセル中將の率ゆる英國東洋艦隊は今十二日横濱に入港の筈なりしが今回同國皇帝陛下崩御せられたるに付司令長官以下一同碇泊地に於て各艦共に半旗を掲げ弔意を表しつゝあるを以て來港を延期せり(同上)

▲現在銀行と資金
大藏省の調査に係る本年四月末現在全國各種銀行數は二千百七十九行にして資本金六億八[illegible]九百十二圓なり(同上)

▲貴族院議員の寄附
貴族院議員有志者一同は第六號潛水艇遭難者扶助及建碑費として金七百八十圓を寄贈せられたり(同上)

▲日本山林總會開催
大日本山林會第二十一回總會は五月十四日より愛知縣會議事堂に於て開催すべし

歐州電報

▲獨皇帝の御弔問
獨逸 獨逸皇帝は在伯林英國大使館を訪問し大使ブラッセルに對せられ英國皇帝の崩御に關し深く哀悼の意を表し尚皇帝は英國新皇帝及皇后に對し大葬に參列すべき希望を表せられたるに英皇帝より尤も懇篤なる回答ありたり又た帝は演習の際バッキンガム宮に御滯在あらせらるべし(十二日)

▲獨帝と前米統領
米國 前大統領ルーズベルト氏の伯林訪問に關し獨逸皇帝と同氏との間に左の次第を交換せられたり(同上)
ルーズベルト氏は伯林宮城に宿泊せずして米國大使館に滯在し十日ポツダム宮に於ける皇帝の家族的朝餐會に列し昨十一日陸軍演習を參觀し同日は皇帝臨幸の上伯林大學に於て講話を試み然る後宰相の催に係る午餐會に赴く

▲獨帝は四週間喪
獨逸 皇帝は英皇室の御親戚の故を以て特に四週間の宮中喪を發表されたり

▲松花江問題不調
哈爾賓 哈爾賓にて露清兩國委員間に三ケ月に亘りて交渉中なりしズンガリー航行に關する協商は遂に不調となりたり七ケ條の案件は相互の互讓成りたるも其他に付き双方の意見全然隔絶一致せざる爲めなり(十一日)

雜報

英皇帝の追吊會
石塚長官其他各高等官等發起となり故英國皇帝陛下の追吊所新築を催す筈にて目下各官衙に向け參列勸誘中なるが多分大葬の日を以て擧行さるべしと

統監府の怠慢乎
…某勅任官の談片…

近着の東京及大阪の各新聞を見るに英帝崩御の事は東京に於ては七日午前中に發表され關東都督府、臺灣總督府及樺太廳には午後一時迄に公報達したるは各新聞電報の證明する所なり然るに統監府のみは午後七時迄崩御の公報は達せずして新聞記事掲載を禁止し在韓十五萬の官民は勿論一千餘万の韓國民に對して同盟國の一大變報を秘密に附したるまゝ宮室の干渉を排して崩御の記事を掲載したる日本電報通信に對し發賣頒布を禁止し且發行停止を命じたる沒常識の行動は言語同斷と云ふの外なし由來統監不在中の統監府は中央政府に疎外され社會上の重大事件は勿論統監府關係の緊急問題すら其經過を容易に知らしめず爲めに石塚長官の如き憤慨せること屢々なりと思ふに英皇崩御の電報が統監府に達したるは七日午後七時なれば中央政府は日本諸官廳、臺灣、樺太、關東都督府への通知を終り最後に統監府に打電したるものなるべし然し今回の事件に關しては日頃最も融通の利くと稱せらるゝ石塚君も日韓民に對し甚だ無責任且不親切なりとの批難は免るゝ能はざるべし何となれば同日午前中に各新聞社に崩御の電報達せし事は確かに知り居たれば公報又は私報にて外務省に照會すれば至急報にて午後二時迄には遲くも返電を得同日中に一般人に知らしむを得たるなり然るに石塚君が英國總領事館にのみ幾度か電話を以て公報はマダなりやマダなりやと夫れのみ心にし前記の手段を取らざりしは一大手落にして殊に新聞に無用なる檢束を加へたるは同君の爲めに遺憾とす云々(電通)

●松井次官代理訓示
内部は既報の如く十一日午前十一時より新任道郡主事二十餘名を大臣室に集め松井局長次官代理として今回韓國政府に於て日本人道郡主事を多數增員せる所以を說き且つ從來日本人官吏の多くは兎角創設的事實に流がれ韓國固有の慣行又は民俗風俗等を酌まざるの傾向あり是れが爲めに往々施政の方向を誤り誣瞞の聲を耳にせるやの憾みありたれば各自赴任の上は充分調査を遂げ然る上實行するを可とす決して漫に功名を急ぐべからずと訓示し夫れより澤田地方局長は韓民に對する態度に就き苟くも傲慢不遜の所爲あるべからず先づ其驕りを愼み併せて法律制度の研究を怠らず以て有終の美を濟されん事を望む特に新に施行せる地方稅に就ては能く民心の趨向を察し指導誘掖以て其運用を誤らざる樣注意すべしと訓示し更に新庄書記官より韓國事情に關し詳細の講話ありたる後本渡府郡課長の赴任後に於ける懇篤なる注意あり其他關係各課長も各所管事務に就き注意を與へ退散せりと

●廣梁灣鹽田初採取
度支部に於ては三年計畫を以て鹽田一千町歩を廣梁灣に築造中の處去る八日工事中鹽田の一部二百八十坪の結晶池より初めて一千斤の採鹽を爲したるに結晶池は未だ土底なるに拘らず純白のものを得結果頗る良好なりと云ふ因に云ふ三年の後は一ケ年一億八千五百万斤を生產する計畫なりと

●韓全國の牧師大會
韓國全道に於て布敎に從事せる耶蘇敎宣敎師代表者は今十二日を以て京城に集合したるが开は來月英國蘇格蘭に於ける世界耶蘇敎大會に韓國より代表者を派遣すべき準備にして ハリス博士は既に代表者の一人と決定せり右に就き統監府は來る十七日同博士の送別を兼ね各宣敎師を統監邸に招待すべしと

●三内親王へ御贈勳
韓皇には我が内親王殿下御成婚に際し未だ御贈勳あらせられざるを以て今般奎章閣卿趙同熙をして勳一等瑞寶章を捧持渡日せしめ韓太子より竹田宮妃房子内親王、北白川宮妃周子内親王、朝香宮妃允子内親王三殿下に御贈勳の筈

●邦人の土地所有高
日本人が韓國に於て所有する土地に付き昨年六月末の調査は宅地面積六百六十一萬三百九十二坪田地面積六千九百八十一萬二千九百四十八坪畑地面積一億〇六百五十七万九千四百六十二坪山林面積一千四百四十八萬八千五百九十八坪なりと云ふ

●日韓人の犯罪比較
隆熙三年中に於ける日韓人犯罪件數を比較對照すれば

種別	日本人	韓國人
犯罪件數	二、四八一	九三三
檢擧件數	一、四一八	二、四二一
逮捕人員	一、〇〇七	二、九六三

●納稅功績表彰効果
度支部は納稅獎勵の爲去一月より特に三千圓を支出し等級を附し夫々賞與の例を設けたるが其効果空しからず既に今日に至る迄賞金若くは褒狀を授與されたる者八十八面の多きに上りたりと

●藤公墓地石垣寄附
統監府參與官等發起となり故伊藤公爵の墓地に石垣及び玉垣を寄附せんとて目下寄附金募集中なるが右は日本側のみに限り奏任官は月俸の百分の二判任官は同百分の一の標準なりと云ふ

●馬山大邱日本金庫
馬山は要塞及防備隊の所在地として又大邱は旅團及理事廳の所在地なるに日本金庫の設けなきより六月一日韓銀同出張所に於て開始する筈なりと云ふ

●新任主事事務打合
新任主事及技手は十三日内部に參集各自關係事務打合をなして任地に向ふ筈

●東洋日報の發展
當地發行の東洋日報は時勢の必要に鑑み韓人間に頒布の目的を以て近々附錄若しくは二版として諺文東洋日報を發行すべしと云ふ前には鎭南浦新聞の韓文附錄を創めるあり今亦東日の此擧を爲さんとするあり、韓人間に邦人言論の一歩を進むるものと云ふべし

●全北の種苗配布
全羅北道に於ては本年度の地方費を以て左の種苗を購入し之れを管内に配布せり

種別	員數	金額
桑	七、〇〇〇本	七〇圓
赤楊	一〇、〇〇〇	三〇
櫟	二〇、〇〇〇	一四〇
山楪	二五、〇〇〇	二〇〇

經濟小言

▲久敷き間の問題たりし東拓會社の定款改正も十四日の株主總會に於て無異議決するならん、次いで起るところの者は社債の問題なり、如何に定款改正がされても社債に成効せざれば佛造つて魂入れざるなり。

▲東電に曰く東拓は外資を仰がずして社債に頼るならんと、社債なりとて外人之を引受けなば一種の外資借入なり、素人常に此種の言を爲す、要を解くの要あり。

▲外人にして東拓社債を引受けんか利率も低かるべく必ずや一種の便宜はあり、只如何にせん同社事業の性質上利拂、償還、据置年限等に於て特種の條件を要するを。

▲現在拂込二百五十萬圓の十倍二千五百萬圓は東拓現在の募債力なり、此募債力全部の使用は東拓にとつて目睫の急はあらず、要は三百萬圓五百萬圓と順次に手に入るゝにあり、而して三百萬圓五百万圓と必要なるだけ手つ取り早く手に入るゝにあり、財政當事者は之が實行に明案を有すと信ず。

▲千四百萬圓の受負とも見るべき土地調査局は韓人を養成して調査員に採用すと、之れ當然の事なり、由來當局の辯は韓人の爲し得る事にも邦人を使つて冗費を掛るにあり、土地調査局の爲す所平凡に見へて賢なり。

▲大邱居留民米豆現物取引所を設けんとすと、之れ大に贊成なり、由來大邱は米豆の集散地を以て聞ゆ、大口の對外輸出は取引所の機關を要す、當局者直ちに認可して可なり。

●伊豫新報の發刊
元朝鮮日日新聞社員山崎秀雄、西山花葉の兩氏は伊豫宇和島に於て伊豫新報と題する日刊新聞を來る二十日より發行する由因に社主は同地辯護士山村豐次郎なりと

●諸郡主事晩餐會
内部は今回着任せる道郡主事二十餘名を十四日京城ホテルに招き晩餐會を開く筈なりと

●通運會社長寄附
内國通運會社長吉村甚兵衞氏は京龍兩民團教育基金中へ百圓宛の寄附を申出でたりと云ふ

●鈴木技師の轉任
農商工部山林局技師鈴木外次郎氏は五月九日付を以て鏡城林業事務所長に任せられ不日赴任

●光濟號仁川拔錨
仁川碇泊の燈臺巡視船光濟號は十一日元山方面に向ふ

韓銀付議事項
去る十日より開催せる韓國銀行支店長及び出張所長會議は十八日頃終了すべき筈なるが今付議事項の主なるものを聞くに左の如し

一、韓銀創立が地方經濟に及せる影響
二、銀行券交換の狀況
三、污染毀損の銀行券交換取扱方
四、舊白銅貨の狀況及處分意見
五、葉錢の狀況及本年中の還收見込
六、米穀買出資金として補助貨を使用せるは今後尚必要なりや若し必要とせば其程度及爲めに生する發行還收の手數減ずる方法なきや
七、補助貨貸付の成績及び將來必要の有無
八、各地金融機關の現況及之に對する關係
九、金庫に關する意見特に借庫取扱及監理に關する方法
十、各地不景氣の眞相原因及今後回復の見込如何殊に韓商人の金融狀況及其盛衰の原因
十一、外國爲替實行方法及其後の模樣
十二、預金利率一定の影響
十三、擔保品取扱に關する意見
十四、韓人の業務上に於ける長短及事務の範圍又は其程度

等にして尚ほ他に多數の事項あるも多くは内部の事務に關する件のみなり

各銀行の金融狀況
當地日本側三銀行及韓國側五銀行四月中の出入を示さば左の如し

▲日本側(貸金の部)

第一銀行	一、〇六四、七一〇圓
五十八銀行	九六七、八四七
十八銀行	六一一、七四二
計	二、六四四、二九九

▲同上(預金の部)

第一銀行	三、七一八、五〇〇圓
五十八銀行	八〇一、二七五
十八銀行	五九八、九四八
計	五、一一八、七二三

▲韓國側(貸金の部)

韓國銀行	一、一二八、一八〇圓
農工銀行	六一五、九八三
漢城銀行	三八八、九八三
天一銀行	六四一、二〇四
韓一銀行	五四一、七四九
計	三、三一六、〇九九

▲同上(預金の部)

韓國銀行	一、五三一、一二四圓
農工銀行	四九四、三五二
漢城銀行	三六七、七一一
天一銀行	三六五、〇三五
韓一銀行	六二一、八八四
計	三、三八〇、一〇六

以上の如くにして各銀行は共に前月に比し色めきたるものゝ如し

石黑男の入京期
石黑男一行は十二日平壤南鎭南浦、開城等を視察し來る十七日頃入京の豫定

●仁川入港船舶減少
關稅局が仁川港昨年度の貿易に付船舶出入の報告書を見るに昨年中に於ける外國船舶は入港八百四十四隻噸數五十二萬一千五百十七噸出港八百六十七隻登簿噸數五十二万二千四百八十入噸にして之れを前年度即ち隆熙二年度に比すれば入港に於て三百二十二隻十一万一千四百十三噸を減じ出港に於て二百五十八隻十一萬八百六十九噸を減じたる由にして其原因は貿易の不振と夏季虎疫の流行せし爲め船舶の寄港するものを減少したるが故にて仁川の不景氣は此一點を見ても知り得べしと云ふ

●榊原憲兵隊長巡視
榊原憲兵隊長は田上中尉を隨へ今十二日午前九時南大門發列車にて釜山に向け出發せり十二日は大邱に一泊の上十三日釜山着同日寄港すべき谷田司令官一行を見送り十四日馬山へ向け出發同管内事務視察の上十六日頃歸任すべし

●英艦司令官の訪問
仁川碇泊中の英國東洋艦隊スロラ號艦長は十一日午后四時英國總領事代理と共に入京十二日午前統監府を訪問せり

●韓銀出張所の新設
韓國銀行は今回新義州に出張所を新設し預金爲替事務及び日本金庫事務を取扱ふ事となり六月一日より開始の由

●獨逸大使の來京期
東京駐在獨乙大使モンモ男爵は本月下旬東京出發來京する筈なりといふ

●李學部大臣の出發
既報の如く李學相は十二日午前九時南大門發列車にて釜山に向け出發したり

●橫井工作課長渡歐
韓國鐵道工作課長橫井實郎氏は鐵道事務視察として近日渡歐の筈なりと云ふ

●東亞煙草重役入京
東亞煙草會社重役江副廉造、金澤牛次郎の兩氏は十二日夜入京せし筈なり

韓國煙草の專賣難
韓國政府が財政の基礎を確立せん爲め度支部財源調査局をして各種の調査を行はしめつゝあるは其財源を消費稅に求めんとするの底意にして現に鹽煙草の二種に對しては頗る嘱望し居れるが如し而して巷間此計劃を忖度して早晩煙草官營の實施を見るに到らん事を期待し現在煙草製造業者は孰れも其際の利權を夢み寧ろ過大の經營を策しつゝあり則ち斯業者の多くは營利の基礎を算盤玉に求めずして韓國に於ける村井岩谷の亞流たらんと欲するものゝ如し然れども韓國に於て果して煙草專賣が實施さるべきや否やに就ては數箇の疑問あり第一現在の狀況の下に之を施行せんとするも各種の困難を見ざるべからず則ち山間僻陬に散在する耕作地の取締を如何にすべきか現に三稅施行後の實驗は明かに之を證明して餘りあるに非ずや又第二は密製造の監視難あり這は吾が日本の如き完税缺漏なき制度の下に在ても尙ほ且つ屢々現實し檢擧接踵の觀あるにあらずや若し耕作地の取締を嚴にし密製造の續出を防がんと欲せば多數の監視官を全道に配置し斯くては到底其煩に堪へざるのみならず折角官營の目的たる財政計畫の根本義を破壞し去るに至るべし第三は韓民の生活程度尙ほ甚だ低く價格に彈力を認む能はざる事是なり元來專賣制度は多少誅求の意味を有し國家の威力によりて物價を釣上するものなれば國民の生活程度之に耐ゆるや否やを考慮するの要あり此點に於て韓國は單に煙草のみならず總て事業に强いて之を施行せんか怨嗟の聲は途に滿ち收拾すべからざるに至らん彼の市場稅の如き營業稅すら彼が如き紛擾を極めたるを見るも明かなり第四は對外關係是なり苟くも既定の條約を有し列國との關係を有する以上は既得の權利に對しては相當之を尊重せざるべからず縱合日韓合併を見るとするも均等の世界的希望に戻るを得ざるべし隨て專賣制度は假令之を斷行するも外的關係は其效果を空しからしむる事鑛然火を見るが如けん如斯煙草の官營は內外各種の故障阻からざれば到底施行困難なるべしと云ふ

▲治外法權▼
▲統監更任問題も後任者はドウヤラ見當が附いたらしい、後任者は言はぬが花、何は兎も角れどつさんも喜ぶ、れつかさんも喜ぶ、ソコデ私しもイソ喜ぶと云ふ次第だ▲併し茲に一寸困つた事は之迄寄つて居た不平組の處分だ、自業自得とは云ひながら彼等を全滅さするは機關運轉上不便にもあるし一寸考へ者だ、何も此際油差迄取換へる必要もあるまい、目星い處を五六人誠つて其他は本願寺諸で濟ますが良い▲もぐらもちと綽名のある多田桓と云ふ男は近々統監府になるソウだ、之は親耕式の席順を作るとき統監を韓大臣の下へ置いて隔離な侮辱を統監に加へんとした罪に因るソウだ▲群山の邦人巡査で會計を勉めて居た奴が官金を入千圓許り私消したとの事だ、コンナ奴は他への見せしめに極刑に處したが良い▲地方警察官の腐敗は今日殆んど其極點に達して居る、之も何やら其源濁りて末清からずと云ふ觀があり、松井警務は責任を以て其源の淨めに盡すべしだ▲と云つてると今日の官署に水原警察署長の賭博が不行居があつたからだ、夫飯は平素部下の監督に怠つて居る、官がコレではドウも如何にもハヤ▲平壤鑛業所の藥物は大抵淘汰された、武田ハイカラ君中々に見識あるだ、無煙君萬歲かね。



名妓洗髪のれ妻(六)

△取つたれ金は右左り ▽忠義な頭さんの車夫

頭さんのれ話になると、澤山いふ事もありますが、私に取つちや第一の旦那でしたからね、洗ひ浚へ申し上げ惡い事情も澤山ありますわ、然し一体私は常も八にれ金を取り上手だと云はれたもので隨分皆さんから取りました事は取りましたが、何も銀行へ納つて置くといふのではない取れば取るだけ右から左へ湯水のやうに使つて了ふ、夫れで何うも斯うもれ金が無くて困ると、拵へて來るのですが、市村が中洲へ出初めの時などでも、中途で何うしても二百圓の金が入る事が起つて、巴家のれ客をと目星をつけた時などは、二晩歸らないよとなそんなのれ金は皆中洲で滅茶々々▲家へは云ひ殘して、見事拵へた、斯ん夫れで借金で困ると、隨分と思切つた事をしました、れ座敷なんかへ行く衣裝がないと、二階に引込んだ限り下へも降りません、尾籠な御話ですが便器も持つて上つて二階住ゐ、借金取が來ても決して下りませんといふやうな有樣、れ金は取りましたが、自分の心からとは云へ隨分貧乏もしました、今叶家の招牌を借りて本叶家になつてゐますのも、妹の小奴からの印形を借りて花の家を出せないと思つたのですが、後で聞くと何も花の家といふ家號に借金がかゝつて來るわけぢやなかつたさうでした▲さう〳〵僅かのれ金に困つたと云へば前に綺麗にれ話しをして置きましたがね、實の處ろ例の洗髪で公園の十二階へ驅けつけた時なども、髮結が間にあはぬといふよりも、實をいふと髮結錢に事を缺いた、髮を洗つた卵二つのれ錢も妹の小奴に借りたのでしたといふ位の貧乏た家し下さい▲夫れで頭山さんは、彼んな豪傑ですから隨分頭さんのれ金は捲き上げましたよ頭さんは常も紙入といふものを持たず幾百圓幾千圓持つてゐらしても、袂に其まゝ打込であるといふ人ですから私にれ金の入る時は、れ酒に醉た撥かなんかで、卯さんの右の袂を片手で押て幾何だらうと踏で見たもの〳〵私も人が惡いね▲而して頭さんは私の爲めには一層深い旦那でした、で頭さんの爲めに、子泣絡みに絡んで縁切樣でも其まゝになつてゐた市村との縁が切れるやうになり、又其れと同時に頭さんとも切れたのですが抑も事の起りといふは三十一年の夏でした、市村が大坂の方へ行つてました、花の家には頭さんが晝から來て遊んでゐたのですが頭さんの車夫が玄關の床几に假睡してゐますと、郵便が來たのださうです、車夫が見ると市村の手紙だもんですから、ソツと懷中に忍ばしの忠義者といふ事になつちやつた。

銀行員と藝妓の情死

▽短銃で眉間を貫き ▽妻女は目下姙娠中

去る十日午前二時頃鎭南浦碑石洞農工銀行々舍に於て同銀行員清水美盛(二五)は同地朝日館の藝妓倶樂部事金子濟(二三)とピストルにて頭腦を貫き情死を遂げ居たるを同館の女中れ鶴が倶樂部の歸り遲きを案じ迎ひに行きたる爲め發見する所となりたるよしなるが素より覺悟の情死の事とて現場四疊半の一室には香水を撒布し机上には兩人の遺書數通を載せ盛裝美々しく双方の身體は水色縮緬の兵古帶にて縛り合はせ眉間の中央を打貫き落命し居たり兩人の關係は隨分久しき以前の事なるが清水には歷乎とした女房あり現に昨今懷姙中なるが清水は倶樂部の爲めに費消したる金額も少なからず倶樂部は到底添ひ遂け難きを思ひ此の無謀の擧に出でたるものなるべし因に清水は數日前同地新聞社員に向ひ近々好材料を供給すべしと語りたる由なれば深く思ひ定めての事なるべしと想像せらる然るにても哀れなるはさりとも知らで身二つになるを指折數へて樂み居る妻女の身の上にこそ

女郎東京の天才

▽消進樓の堀出し物

當地新町遊廓消進樓に意氣な姿を東京と無意氣に呼ばるゝ女ありツイ此の頃の店出しながら何所やら可愛いゝ所もあり且つは同人頗る悟つたものにて女郎とは問へば渡し船の如しと聡へ誰れをか好み誰れとか惡むと尋ぬれば誰れも乘せれば樂に搭す掉すもよし櫓するも可と酬ふ程の一視同仁主義者なれば既に多くの姉女郎達を後に瞠若たらしむる底の全盛を極め居れるが去る十日の如きも未だ暮れやらぬ黄昏時相前後して東京名指しで登樓したる二人の客あり一人は壽町一丁目の田中某とは審か一人は大和町二丁目の高柳某、知れたり未だ廓馴れぬ彼れの事なれば檻褸とや出さんも知るべからずさて樓主仲居は氣を揉んでハラ〳〵したるは取り越し苦勞、初心らしき間に手練あり正直らしき裡に手管あり高柳田中の兩人を右と左りに繰りたる廻し振りは水際立ちて見れたりとは何んぼう凄き腕前ならずや、是れよりしてぞ天才女郎の名は新町に遍く渡れり、粹客通士夢近寄つて怪我ばし仕玉ふなよ。

三鱗笑子の執着

▽慶田組若旦那の事

仁川鱗樓の笑子は曩に大事の大事の弗旦なる秋田を淺岡の千代子に取られて味氣なき世を觀じつゝありしが又しても熱心深き色男を淺岡のれぽこ奴はいゝ〳〵とバチツカセつれ左らぬだに大きな眼をパチ〳〵しつゝある事の眞相は仁川の本町に慶田組と云へる運送店あり同店の若旦那と云ふは先つ頃まで高等商業學校にありたるボッと出の好男子にて年は若いし當世の業平よろしくと云ふ容貌を備へ居れるを窃かに見染めしは前記笑子拍子なるが其より後或る機會を得て假の情交を結びたるにぞ笑子はホク〳〵ものにて天にも昇る悦びを滿面に堪へつゝありしも東の間の夢、元來其の若旦那は仁川に珍らしき程の色男とて淺岡のれぽこの爲め何時しか横取られ笑子に興へんが爲め折角糸鞁に注文したる眞珠入の指環もれぽこの方に掠め取られしものから昨今笑子般若の如くなりつゝ〳〵仁川に厭氣がさしたと即ち居るとか

民團奸吏處刑

▽一部の判決言ひ渡し

京城居留民團吏員にして徴税に從事中監督の不備に乘じて公金を橫領費消したるものあり其の筋の手に嚴に取調べ中なりし事は屢々報道せし如くなるが其の內の一人栃木縣芳賀郡茂木町字茂木平民無職當時咸鏡北道羅南郡羅南(?)通り小瀬鑑之助(三六)は民團外勤徴税係を拜命勤務中疾病其の他の事故に依り生計上困難に陷りたるより自己が徴税に係る公金を流用して一時の窮迫を免れんと決意し四十二年六月下旬より同九月中旬迄意思繼續して各種の税金合計二百九十一圓七十八錢を橫領し負債の償却其の他に費消したる事件に付き京城地方裁判所に於て審理の末懲役一年六箇月に處すべき旨五月十一日言ひ渡され他は目下尚ほ審理中なり



女振り

佐藤熊太郎氏內儀 佐藤かつ子

「傾城に誠ないとは誰が云ふた誠ある程かいもせで野暮な口からいき過ぎな」とは江戸の名妓小紫君が平井權八君の際に洩れて遊君の爲めに吐いた氣燄の一節である、熊太郎君は駿州部岡の產で旭町二丁目に製圖設計土木建築請負業を營むで居るかつ子君は本姓は小田桐、東京市下谷區下谷入谷町の士族何某の娘で明治十六年四月の出生である、かつ子君が二十二三の頃迄は實家は何不自由ないものであつたが或る失敗は遂にかつ子君に累を及ぼして三十九年の一月十六日當地第一樓から一枚と名乘つて重ね草履を穿く身となつて大東新聞や漢城新聞に艶名を唄はれたことは新なる事實だ、其の時分誠を籠めて通ひ詰めたのが熊太郎君で此れが即ち今日の琴瑟相和を見るに至つた原因である、內儀としてのかつ子君の活動は非常なものだが何うも病氣勝ちで一時ドクトル工藤病院に入院して居たが此頃は藥瓶を提げて通院して居る、かつ子君見掛けに依らぬ嫉妬家で宴會等に出席中の熊太郎君の歸宅が少しでも遲いと車に乘つて迎ひに行く、戻つてからが又事だが此れは隣りの菓子屋の叔母さんが出掛けて納めることになつて居る。兎に角內儀のスコヤキは家內和合の徵證とも見られて決して不芽出度いことではないのである、本年二十八の女盛り。

京城近郊暴徒

▽憲兵補助員の如き服裝

西部內資洞五統九戶金日昇(三五)北部樓閣洞白二十八番戶柳基彥(三五)は十一日漢城財務監督局雇人夫として伊川に到る途中午後一時頃坡州郡樓峴の東方道路(坡州邑內より南方約一里)に於て暴徒十名に出會し汝等は日本人の密偵ならんとて金日昇の背部及右腿部を柳基彥の左肩部を毆打し所持金二圓五十錢を奪取し西方樓峴に向つて立ち去りたる旨本町分遣所に訴へ出でたり因に彼等の服裝はカーキー色の洋服を着し一見憲兵補助員の如くにして火繩銃三挺逆發銃七挺を所持し居たりと

本日は李在明の公判

▽李首相を刺したる

辯護士の都合に依り延期せられたる兇漢李在明等に對する公判は愈々十三日午前九時より當地方裁判所に於て開始さるべく大崎岩田木尾の日人辯護士及安東讃李冕宇の韓人辯護士等也と

●韓人の銃器私藏

韓人は一般に銃器を所持し得ざる規定なるにも係はらず此の頃銃器を所持する韓人屢々あるより時節柄捨て置かれず靡洞分遣所は嚴密に探偵をなし居りしが東部仁昌坊往十里一統五戶反物商崔漢福(五〇)が單發銃一挺及彈藥十九發、南部豆毛坊往十里四統十戶雜貨商金文益(三二)が一挺彈藥十發、同所雜貨商金元植(五三)が同上一挺南部豆毛往十里五統五戶金命山(三一)が同上一挺彈藥二十一發を何れも私藏せしを探知し之を押收し彼等に對し嚴重に取調中なりと

●日本で妓生芝居 大阪相撲頭取朝日山は日本に於て韓國妓生芝居を興行する計畫にて過般來京該方面と種々交涉中の處昨日妓生八名樂人六名を雇入るゝの契約成立したれば近々一行を伴ひ歸朝すべしと云ふ

●臨濟寺の微笑會 十三日午後四時より初音町二丁目臨濟寺に於て圓山大嶺師の例會講演あり參聽隨意

●狂犬 西部養生坊館井洞五十六統九戶金順吉の畜犬本町六丁目十一番戶染物丸屋雇人淺井庄之助(一七)に咬付きたる狂犬病の疑あるより檢察の結果撲殺す

●ボヤ 十一日午後二時三十分盤松坊松亭洞五十一統三戶金般西方より發火原因炊事場より失火損害十四圓余

目と耳

▲歌舞伎座 連夜大入を續け居れる木村一座十三日の替り狂言は黒法師作の「想夫憐」にて重なる配役左の如し 岩崎雅子(君子)井原濱子(萍華)とし(靜子)らん(體子)中野とみ(石井)女中(千葉)とよ(千代田)井原健輝(渡邊)書生(岡村)車夫(高田)下女(村山)岩崎一彥(內田)書生(奥山)女中(楠)女中た玉(瀨澤)森田一郎(富士井)書生(小出)熊谷(榎本)小泉修三(寺田)女中(東)高阪(三好)女中れ駒(白石)文吉(廣澤)未亡人(桃井)中野清助(木村)

▲浪花館 三遊亭若遊三一座十三日の口演目錄は左の如くなるが一座大車輪にてれ客の腹の皮を撚る都合なり▲播州巡り(若三郎)道灌(若明)無筆の親(笑三)千性物の代參(圓三)子寶(文番)高砂(座員惣出)七段目(若遊三)大切所作事早替り電氣應用

▲壽座 中村甑若一座十三日の藝題は昨紙記載の通りなるが同夜に限り木戶錢半額の事なれば早ばやさ

▲平民文庫▼

▲聞度き生に告ぐ第一樓本店の九重は臺灣臺北にて浮名をあげた女郎にあらず彼の原籍は橫濱本名原みつ本年二十二歲以前橫濱で原商會と云ふ有名なる商人の娘で高等女學校迄卒業せし由なるが父事業失敗の爲め一昨年五月當京城に來り其の爲め今日泥水生活をなして居る尚ほ詳細身上話し聞き度くば新聞紙上などで聞くより直接聞く方が九重の爲め隨分美人で取扱が親切だよ(知らせ生)▲龍山民團議員暗撲ち加害者は今日迄捕へられぬ憲兵隊には山の如く投書が積みある由にて彼事件に付ては當局者は全部燒かれて居るげな憲兵隊が犯人捕へる事になれば當局者と衝突する爲め漸時見合せ居るそうな(立聞生)▲新町遊廓で廻し客取る所は第一樓計りと思ひしに潰進樓も取る相だ玉代の高い上不當な收得をしく〳〵素破拔いては如何(醉客)▲旭町淫賣屋萬張り居るが不當な酒肴料を要求し淫賣隆盛な所は其の筋の注意と新聞より素破拔いて戴きたい(嘆願生)▲消水席の勇助さん此頃本町一丁目田〇法學士より御便りがあるのですか枕金は何程でしたか(岡燒生)▲矢野先生の如き善良なる人を第二小學校に轉校させた校長に甚だ不服詞氏の受持生徒連は嘆かぬ者はない余等父兄は憤慨に堪へぬ(憤慨本町の父兄)▲小僧さん相變らず憎まれ口をれ叩きだよ誰が其機事を申しました本當に口惜しいはと唯の狐なら云ふ所ですが用捨のない小宮なら小僧さん貴郎も有る丈の金を持つてれ入來必ず海月にして見せると云つて居るでしよう(被害者)▲君子は危きに近よらず朝鮮犬同樣遠くから吹へるに限りますよ(小僧)▲過日の本欄に漢城病院長の乘車が本町通りで一婦人を轢傷して走り去つたと投書した人があつたが當日即ち七日は黄金町へ一回出診したのみ本町通りは通過せざりしを以て事實左樣の事の有り得べからざる事で小生は非常に苦惱を感ず事情を具して冤罪たることを告白す(安藤一郎)▲

間違などに云ひながられ氣の毒に存じます(保)●

今日の運勢

五月十三日(舊四月四日)六白 先勝 戊寅 納

△一白●快欣の日なり好事若くは便宜あり子孫の事を謀るは尤も妙△二黒●平靜の日婚約を結び旅行相談披露等吉紛失防ぐべし△三碧●新事見合せの事金品授受貸借運滯保證の類間違多し△四綠●違錯多き日なり諸事控へ目にし盜害橫領防ぐべし△五黄●疎漏失念起らんとす尙酒色の害を戒飭す△六白●委任受任保證運滯り法律關係及交際上衝突を避くべし△七赤●破れ多き日憤怒を戒しむ證券帳簿の上に注意し旅行轉住見合すべし△八白●平凡の日なり火に關する業務に尤も好望建築勤土を忌む△九紫●衰運なり新事見合せの事取引貸借裁判相談依頼利有らず(本町五、三一館判斷)

第十八號 公告

一金七十五圓也 當民團立高等女學校敎育上參考書籍購入費

右ハ龍山滋道官舍第五十七號第一戶笹井温惠殿ヨリ寄附相成候條此段公告ス

明治四十三年五月十一日 京城居留民團民長 古城菅堂

第十九號 公告

一金二百圓也 當民團敎育基金へ寄附

右ハ內國通運株式會社長吉村甚兵衛殿ヨリ當民團敎育基金ヘ寄附相成候條此段公告ス

明治四十三年五月十一日 京城居留民團民長 古城菅堂